

林野庁 北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター

令和元年度 年 報

オホーツクの「森」から



発行に当たり

オホーツク地方は、世界自然遺産「知床」や網走国定公園等、自然環境に恵まれ貴重な動植物を育む地域です。

常呂川森林ふれあい推進センターは、オホーツク最大の河川である常呂川流域を中心に、自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育等に取り組む企業・団体・NPO等の活動の支援、技術指導等を行っています。

この度、令和元年度の主な活動内容をまとめましたのでご覧下さい。

目 次

森林環境教育の取組み	1頁
地域との連携・普及啓発等の取組み	4
自然再生・生物多様性保全の取組み	9
活動区域及び所在地		

森林環境教育の取組み

○端野小学校 森林教室

6月19日（水）、端野小学校5年生35人を対象にオホーツクの森で森林教室を行いました。



まずはアイスブレイクで子供たちの緊張をほぐし、3班に分かれてカモフラージュです。

自然界に存在しない物を探しながら、保護色や擬態、花や木の実が目立つ理由を学びました。

また、遊歩道入口に白い葉が目立つマタタビがあり、それらの持つ意味をみんなで話し合いました。

次に「古の森」の遊歩道を歩きながら、凍裂や倒木更新などを観察して、自然の仕組みについて理解してもらうとともに、木の名前を少しでも覚えてもらうため歩道脇の樹名板を使いながら木々の特徴について話しをしました。

また、太い木が多くある森の中で、巻き尺を使って木の太さを測ったりしましたが予想を見事に的中させる子もいました。

子どもたちは、楽しく自然とふれあい、とても森林に興味を持ってきている子もいました。

今後も学校側の要望に応えることが出来るよう、また、子どもたちが自然に触れて考えられる楽しい時間を提供出来ればと考えています。

○常呂小学校

<自然観察会>

7月5日（金）、常呂小学校3年生15人を対象とした自然観察会（ワッカネイチャースクール）を行いました。

これは、常呂小学校から「例年ワッカ原生花園（網走国立公園の一部）でおこなっているが、花を見るだけとなり、力を貸して・・・」との要請を受け、自然を楽しむ・親しむことを目的に昨年から行っているものです。

自然を感じること・観察すること、楽しむことを重視し、ネイチャーゲーム（「フィールドビンゴ」「カメラゲーム」「サウンドマップ」「サイレントウォーク」）を組み込みながら3班に分かれておよそ2時間の散策です。

「サウンドマップ」では、「船の音が結構聞こえた、あと風の音がヒューヒュー





と聞こえた」「小鳥の音がたくさん聞こえた」などの声がありました。

また、「カメラゲーム」では、エゾスカシユリやエゾフウロ・ムシャリンドウなどの花をメインにした絵が完成していました。

途中、班員全員が双眼鏡で見終わるまで、枝先で鳴く鳥やサギの一種も見られ、楽しく散策することが出来ました。

担任の先生からは「とっても楽しい時間をありがとうございました。来年も是非お願いします。」という心強いコメントをいただきました。



<木エクラフト教室>

自然観察会を行う際に雨天時に用意していたプログラムを、図工の時間に体験したいとの要望があり、11月26日(火)、同じ3年生16名を対象に行っています。



少しでも自然に興味を持ってもらうため事前に「木」や「森」などについての質問を出してもらい、それらに答える時間を設けました。

続いて「落葉のステンドグラス」と「マツボックリのクラフト」の2種類を製作しました。

当センターとしても初めての試みで、刃物を使った作業で思いのほか時間がかかり予定時間をオーバーしたり、事前に集めた質問の返し方も回収時期を早めて視覚に訴えた方が子供たちに分かりやすい等、事後の打ち合わせで反省点が多く出されました。



また、高学年生や今回の児童たちに再度の指導要請を受けた場合の対応策として、新たなプログラム(クラフト系)の開発も進めて更なるスキルアップを模索しています。

○キッズチャレンジクラブ

7月20日(土)、オホーツクの森で、遠軽町生田原教育センター主催の「キッズチャレンジクラブ」(森林教室)を森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得てサポートしました。

当日は小学1年生から中学3年生まで16名の参加でした。

まずは2班に分かれて平安遊歩道(「森の家」



裏山の散策路)に作られた5つの関門をクリアしながら森林散策です。

じゃんけんで勝ったら渡れる橋やトランシーバーや双眼鏡を使ってクリアしていくゲーム、そして、今年初めての関門「樹木調べ」では、樹木の特徴を記したヒントを頼りに見事正解でした。

裏山から戻ってきた子供たちは、ハンモックやターザンロープ、ブランコなどに乗り笑顔いっぱいでした。

少し前まで山登りで疲れたと言っていた子もいましたが、すぐに元気に動き回ります。竹で作った水鉄砲で遊び、びしょ濡れの子も続出、森や小川で自然を楽しみました。



○樹名板作成

森の家周辺および平安遊歩道に樹名板を作成・設置しました。

木の名前だけでなく、幹や葉の特徴、用途、名前の由来などを記載しており、散策しながら樹名を学ぶことができます。






今後、この樹名板を活用したイベント(樹木博士など)も検討したいと思います。

ケヤマハンノキ

高さ 25m、太さ 80cm ほどになる瓜葉樹
 葉は互生し長さ 6~14cm、広卵形で不揃いな二重鋸歯、裏面に毛がある
 樹皮は横長に灰色の皮目が入り、古くなると縦に裂け目が入る
 実 は 15~25mm で 9 月 ころ 熟 す

・用途：公園樹、街路樹、家具材など
 ★根粒菌を持ち痩せ地でもよく成長する。切り口が判子(ハンコ)のようになくなるのでハンノキ

ケヤマハンノキ赤木口の變化 (左：幼樹期、右：成木期)

地域との連携・普及啓発等の取組み

【地域と連携した取組み】



ネイパル北見（北海道立青少年体験活動支援施設）

○遊びの祭典

5月5日（日・祝）、ネイパル北見の要請を受けて「遊びの祭典」に当センターから3名が支援しました。



これは、大型連休中に多くの体験が出来る宿泊イベントで、およそ40家族が参加しており、缶バッチ作成やポップコーン作りなど様々な体験メニューがありました。



当センターは、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、カラマツやエゾマツのまつボックリと枝を使った木工クラフトや竹とんぼ作りをしました。

今回は、人数が限定されていたことから落ち着いた雰囲気の中でクラフト作りをすることができました。



北海道農政事務所北見地域拠点（農林水産省）

○夏休み子ども体験デー

8月6日（火）・7日（水）、オホーツク木のプラザで北海道農政事務所北見地域拠点・北海道森林管理局（網走南部・中部森林管理署及び常呂川森林ふれあい推進センター）共催により「夏休み子ども体験デー」を開催しました。

これは、子どもたちに農林水産業への理解を深めてもらうために行っているもので、2日間で子ども約250名、保護者を含め約400名の来場がありました。



当センターは網走南部署・中部署と共に森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、竹とんぼ・森の素材を使ったジオラマ・まつボックリのクラフト

・丸太切り体験等、多彩な催しを行いました。

今年は会場を変更したことにより、交通の利便性も良かったため来場者も多く、昼食も取れないほどの大盛況でした。



「枝や木片、種を使ってこんな可愛い物が出来るなんて」と、驚きの声を上げながら製作に夢中な人がいる一方、順番待ちの人も多く、来年以降はよりスムーズに来場者を受け入れられる体制を考えなければと思います。

事後のアンケート結果では、苦勞？の甲斐もあって国有林ブースが1番人気の評価を頂きました。



網走市農政課

○「オホーツクの森」森林散策会

10月26日（土）、網走市主催の「オホーツクの森森林散策会」を支援しました。

これは、木や森の存在を身近に感じ、自然とともに生きることについて学ぶ機会を増やすため、木育の一環として行なわれたものです。



当日は、網走市民10名の参加があり、植物や動物・土や水等が、相互に関わりを持って成立している様子が見られる「古の森」遊歩道をセンター職員がガイドしました。

参加者からは、「森林の営みが勉強になった」「普段余り来れないところに来られ紅葉も見られ

良かった」等の感想がありました。

【ボランティア団体の活動支援】

森林ボランティア「オホーツクの会」

○秋の森林散策会

10月12日（土）、総勢43名の参加で行われた秋の森林散策会「錦仙峡」を支援しました。



錦仙峡は、滝上町市街地を流れる渚滑川の兩岸に設置された「北海道観光百景」「美しい日本の歩きたくなる道500選」などに選ばれている遊歩道で、紅葉真っ盛りでした。

スタート地点の「虹の橋」で集合写真を撮った後、6班に分かれて約3.0kmを1時間30分ほどかけて散策しました。

カエデ、ナナカマド、ミズナラなどの紅（黄）葉と大小さまざまな滝や岩肌が織りなす風景に「紅葉の美しさに感動！」「こんな良い所があったなんて！」「まるで奥入瀬溪流みたい」などの声がありました。

○その他の活動支援

- 6月4日 自然に学び隊（オンネト一周辺）
 - 8月4日 クラフト教室
 - 9月19日 自然に学び隊（滝上町）
 - 11月2日 炭作り隊・色いろ食べ隊
 - 2月20日 自然に学び隊（サロマ湖畔）
- などの活動を支援しました。



オホーツク森の案内友の会

○夏の自然観察会

7月6日（土）、夏の自然観察会「白湯山」（阿寒湖温泉の南側にある標高 950m ほどの山）をガイド支援しました。



当日は、時おり小雨も降るあいにくの天候でしたが、阿寒湖畔スキー場から自然探勝路を約 2 時間かけ展望台（標高 788 m）へと向かいました。

途中、温泉の流れる川や自然の花々（ミヤマキンポウゲなど）、泥火山の硫黄の臭いがし湯気があがっている「ボッケ」も見られました。

また、雌阿寒岳は雲がかかりハッキリ見えませんが、展望台から望む雄阿寒岳と阿寒湖のパノラマは絶景でした。



この他、次の行事等へ参加し、地域と連携した取組み、ボランティア団体の活動支援、技術指導等を行っています。

オホーツクみどりネットワーク

- 5月30日（水）全体会議・総会
- 7月20日（土）チミケップ湖散策会
- 10月24日（水）チミケップ湖一周ウォーク

北海道オホーツク総合振興局東部森林室

- 9月10日（火）置戸小学校森林教室（置戸町道有林「風穴」）
- 10月29日（月）木育・森林環境教育意見交換会
- 2月13日（木）令和2年木育ワークショップ



置戸小森林教室

オホーツク「木育の会」

- 4月22日（月）設立総会
- 6月2日（日）チミケップ湖遊歩道開通記念森林ウォーク
- 2月13日（木）令和元年度「オホーツク木育の会」総会

【普及啓発の取組み】

○「緑の募金」街頭募金キャンペーン

4月22日（月）、JR北見駅北口及び駅前商店街で行われた「緑の募金」街頭募金キャンペーンに、当センターからも参加しました。

地球上の生物が生きるために様々な役割を果たしている森林を守り、未来へつなげていくために、森を育て緑を保全する必要性を知ってもらえるよう、北見市の「緑の募金」活動と併せて出発式が行われました。

主催者を代表して「緑と花の市民の会」の会長挨拶、続いて来賓の北見市長の挨拶の後、7団体・約50名が、JR北見駅前から2条通までに分かれて募金活動を行いました。

街ゆく人に募金を呼びかけると、多くの方に快く募金していただきました。「緑は大事だから大切にしないと」などと声をかけてくれる方もおり励みになりました。

好天にも恵まれる中で約1時間の活動を終わりました。



○森林の魅(味)力を感じよう！

5月26日（日）、オホーツクの森で「森の魅(味)力を感じよう！」(山菜教室)を行いました。

これは、国民の祝日「山の日」の趣旨「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。」を受けて、身近にある山野草を味わうことを通じて「オホーツクの森」の魅力を感じてもら



うことを目的に実施したもので、北見市及び近隣町村から25名の参加者がありました。

最初に、山菜が食べられ始めたのは縄文時代からであること、江戸時代から山菜と呼ばれ、飢饉の食料難を救ったことなどや、山菜採取のルール・注意点、山菜と間違いやすい毒草の話しをしました。

その後、「森の家」の周辺でタンポポ、ニリンソウ、ヨブスマソウ、セリなどの食べられるもの、クサノオウ、バイケイソウ、トリカブトなどの食べられないもの（毒草）を学びながら試食用の山菜を採りました。

試食タイムでは、採りたての①オオイタドリ②タンポポ③ウド④ヨブスマソウ⑤ニリンソウの「山菜シャブシャブ」を酢味噌、マヨネーズ、ごまだれの3種のタレでいただき、食べログ方式で参加者に採点してもらいました。

結果は表の通りですが、ウドは「慣れ親しんだ味、酢味噌がおいしい」「オオイタドリは初体験、歯ごたえがいい」「タンポポはあとから苦みがくる」「全て自然食品で身体に良さそう」などの感想がありました。



(5点満点)

山菜・野草	酢味噌	ごまだれ	マヨネーズ
オオイタドリ	3. 31	3. 69	3. 31
タンポポ	2. 38	2. 44	2. 06
ウド	4. 25	4. 19	4. 00
ヨブスマソウ	2. 88	2. 81	2. 56
ニリンソウ	3. 50	3. 44	3. 25



午後からは、猛暑（北見、最高気温38.1℃）の中での山菜採取となりましたが、無事終了することができました。

○森林へおいでよ！パネル展

9月28日（土）～10月6日（日）、北見市緑のセンターで、森林ボランティア「オホーツクの会」との共催により、一般市民に森林づくりの楽しさや大切さを理解していただくため「森へおいでよ！パネル展」を開催しました。

当センターは、「オホーツクの森」の自然再生モデル事業や自動撮影カメラがとらえた野生動物の写真、植物の花の写真を展示し、身近な自然のすばらしさを紹介しました。



オホーツク会からは、自然素材を活用したクラフトの新作や、鎖チェーンに磁石で取り付けた額縁入り4枚組のシナノキ、エゾマツ、ツルアジサイの写真、秋・冬の散策会の写真集、森林ボランティア活動や自然の中で体験する「こども探検隊」などの楽しそうな写真パネルを展示しました。

展示後半の土・日は天候に恵まれず、他の催しとも重なって子供連れの家族がまばらでしたが、来場者は、展示された作品に見入ったり、マツボックリ工作や竹とんぼを作って楽しんでいました。

【広報活動】

当センターでは、イベントの案内や「オホーツクの森」の自然情報等をホームページに掲載してきました。

一層の情報提供の充実を図るため、広報誌「森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク」を発行しています。

今年度はNo31～No33を発行し、当センターの活動をPRしましたので、是非、ご覧下さい。よろしくお祈りします。

「森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク」

http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/morimori.html



自然再生・生物多様性保全の取り組み

○自然再生モデル事業企画運営協議会

第1回協議会は、10月30日(水)、「オホーツクの森」及び「森の家」で委員等12名の出席で開催されました。

現地検討では、樹種転換エリア植栽地の保育



状況説明(補植等)後、樹名板作成と活用

状況を説明しました。特に、樹名板の活用方法について委員から助言等がありました。

なお、令和元年度の第2回協議会については、3月17日(火)に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となりました。



○森林づくり塾

これは、森づくりを通じて森林の果たす役割を理解していただくとともに参加者の知識・技術の習得と森づくりに関わるボランティアの輪を広げることを目的に行なっているものです。

<第1回>

6月9日(日)、「オホーツクの森」で北見市民10名の参加で行いました。

今回は3班に分かれ、100年前の森林(広葉樹と針葉樹が適度に混じった、色々な木や草の種類がいっぱいある森林)を目指し10年前からカミネッコ植樹した木々の状態を調査しました。

なかなか探すのに苦労するぐらい小さな物や2m以上に生長している物・枯死・消失している物もあり、「長い年月で条件により、それぞれ生長が違いますね」「自然界の厳しさを改めて感じる事が出来ました」などの声がありました。



また、手鎌による植栽木の廻りの草本類除去を一緒に行いました。

昼食後は、「オホーツクの森」展望台からの眺望を楽しんだあと、クリンソウが咲く遊歩道を散策しながら、若干の山菜採取を楽しみました。



<第2回>

10月19日(土)、「オホーツクの森」で北見市及び近隣からの参加者8名により行いました。

今回は、自然再生モデル事業地で長年の風雪などで枯れてしまった箇所の補植と苗木作りを「樹薬種苗」(北見市小泉)で学びました。

当日は、天候が気になりましたが、午前中に11本のミズナラの苗木(樹高約1~2m)を植えることが出来ました。

参加者からは、「思っていた以上に作業が大変でした」「来年からの成長が楽しみです」等、午後からの苗畑では、「種や挿し木からの苗木づくりの大変さを知りました」の声がありました。



○オホーツクの森林づくり

6月30日(日)、共催：森林ボランティア「オホーツクの会」、後援：オホーツクの森自然再生事業企画運営協議会により、29名の参加で実施しました。

これは、針広混交林をめざし約10年前からカミネツコン植樹してきた区域(樹種転換エリア)の手入れを通じて、その生長を手助けするとともに、森林の働きや公益的機能などの理解を深めるために取り組んでいるものです。



午前中は、植栽木周辺のササ等を刈り払うとともに位置を表示する木杭打ちを行い、心地よい汗を流しました。

午後からは、マスコミ等でも2020東京オリンピックでの活用などが報じられている北海道家庭学校(遠軽町)にある展示林(1964年東京オリンピックの際に各国選手団が持ち寄った樹木の種子から育てた林)を見学しました。

参加者からは、「地元にもこのような経緯がある展示林があることは知らなかった」「個人では来れない所で、貴重な展示林を見れて非常に良かった」などの声がありました。



【野生生物自動撮影調査】

当センターは、平成20年から「北海道野生生物観測ネットワーク」に参加し、国立研究開発法人森林総合研究所北海道支所から技術支援を受けて、「自動撮影装置による中大型ほ乳類の調査」を実施しています。

この調査は、撮影頻度という量的なデータに基づいて、中大型ほ乳類の生息動向を探る試みで、道路沿いに設置した赤外線感知装置付きの自動撮影カメラの前を通ると24時間、自動的に撮影されるものです。

今年度は、7月9日～29日（21日間）、8月19日～29日（11日間）、9月12日～25日（14日間）及び10月3日～23日（21日間）の4回実施し、撮影された野生生物は、エゾシカ101回、キタキツネ268回、エゾタヌキ173回、エゾリス18回、クロテン1回となっており、キタキツネとエゾタヌキの撮影頻度が高くなっています。

また、ネコ28回、コウモリ類2回、キジバト、ヤマシギ、トラツグミ、カケスが各1回撮影されており、合せて595回撮影されました。

また、今年度で「北海道野生生物観測ネットワーク」の取り組みが終了することになりましたが、アライグマ等の生態系に影響を及ぼす外来生物の監視や野生生物の生息動向を確認するために自動撮影調査を継続していきたいと考えています。



クロテン R元. 10 (P2)



コウモリ R元. 9 (P1)



エゾタヌキ R元. 8 (P1)



トラツグミ R元. 9 (P1)



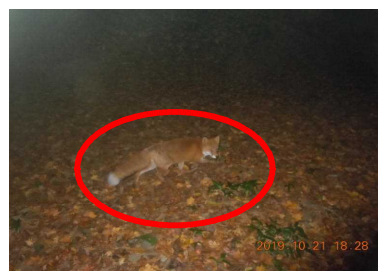
エゾシカ R元. 10 (P5)



カケス R元. 10 (P1)



エゾリス R元. 7 (P6)



キタキツネ R元. 10 (P6)



林野庁 北海道森林管理局

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

常呂川森林ふれあい推進センター

〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11の3

【TEL】0157-23-2960 【FAX】0157-26-2144

http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/index.html

<メールアドレス> h_tokoro_f@maff.go.jp



表紙：「オホーツクの森 古の森」端野小学校森林教室 樹木の直径測定の様子